

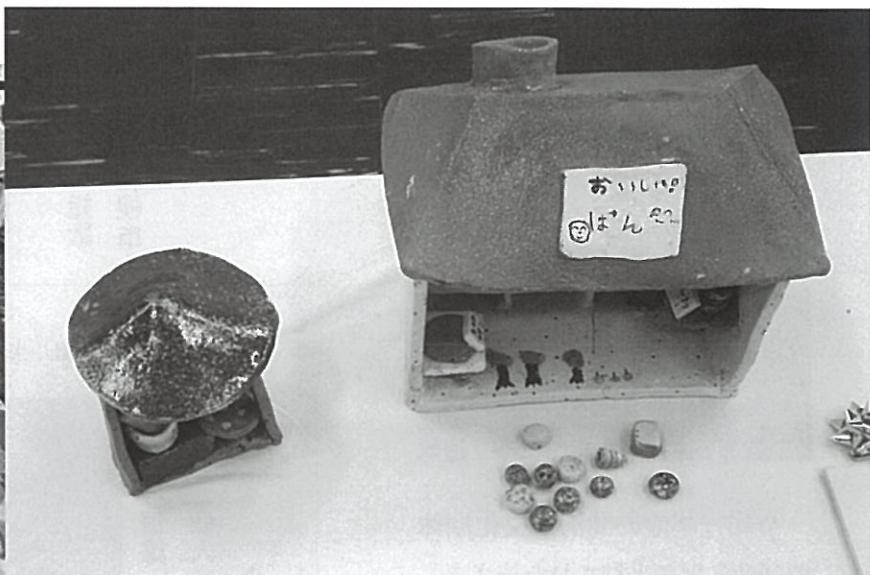
北海道 芸術文化

No.66



「想像からつながる未来」
北広島市 大曲中学校3年 藤江 一七

障がいのあるなしにかかわらず、子供たちの作品を同じ会場で展示する初の展覧会「こども+アールブリュット 北海道みらい作品展」を昨年8月に開催。子供たちの無限の可能性を感じる作品展となりました。写真は知事賞を受賞した3作品。詳しくは4ページをご覧ください。



「おいしいパン屋さん」 札幌市 日新小学校2年 佐々木 はる



「い」 旭川市 旭川盲学校小学部4年 金谷 啓右

北海道文化団体協議会賞の各賞が決定



鈴木直道北海道知事の祝辞を伝える
築地原康志道環境生活部長



受賞を祝して
北海道文化団体協議会
会長 橋本 道政

令和元年度の北海道文化団体協議会各賞を受賞された皆さま、まことにおめでとうございます。当協議会を代表して心からお祝いを申し上げます。

皆さまは長年にわたりご専門の分野で研鑽を積まれ、顕著な功績を残すことによって北海道における芸術文化の振興に尽くしてこられました。とりわけ各地域において、それぞれの分野の牽引役として後進の指導はもとより、地域の文化活動の力強い支柱として、なくてはならないお立場にいらっしゃると拝察しております。

どうか今回の受賞を契機としてさらなるご活躍を期待申し上げるとともに、北海道の芸術文化振興にさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「北海道における芸術文化の高揚に尽くされ、業績を上げた個人または団体」を対象に顕彰する北海道文化団体協議会賞が決定。

今年度は、芸術賞が1個人、道文団協賞が2個人、道文団協奨励賞が2個人、2団体に贈られました。

【第26回北海道文化団体協議会芸術賞】

内田 弘
札幌市
個人・短歌



【第49回北海道文化団体協議会賞】

大道 恒雄
小樽市
個人・音楽



石川 隆夫
札幌市
個人・文化活動

【第14回北海道文化団体協議会奨励賞】



中野 政幸
個人・文化活動
当別町



風張 好幸
個人・日本舞踊
岩内町



鹿追町文化連盟
団体・文化活動
(代表 高橋征士)鹿追町



釧路町吹奏楽団 団体・音楽
(代表 土井 克朝) 釧路町

受賞者から喜びの声

芸術賞

内田 弘

道文団協賞

大道 恒雄

石川 隆夫

第26回北海道文化団体協議会芸術賞の受賞はとても名誉なことで感謝に耐えません。

私は、学生時代に短歌を始めて今まで56年になります。「アララギ」の「写実」を学んでまいりました。昭和62年に初めての歌集を出し、平成7年に第2歌集、平成21年には第3歌集、平成25年に第4歌集を、今年の5月には短歌隨筆集を出版しました。

北海道文化団体協議会には20年間、常任理事として務めさせていただきました。幅広い交流と多くの影響を理事さんたちから頂きました。私の歌は、北国の生活をどうリアルに表現するか、時代をどのように詠うか、がテーマです。

冬空を静かに雲の漂えば
それよりビルの狭間に日が差す

最近の私の歌です。都市の空間に漂う生活をつぶさに表現したいのです。これからは、「文化こそが人と人を繋ぎ、心を繋ぐ源なのだ」との考え方の下、北海道の独自の文化を育んでいくことを胸に、皆さんと共に文化芸術の振興に関わって参ります。

このたびの第49回北海道文化団体協議会賞という身に余る立派な賞を賜り恐縮しております。

現在、5つの合唱団のタクトをとっています。団員は小学1年生から95歳までの130名。各団単独で発表会などを開催したり、病院や老人養介護施設へ慰問したりなどなど。

小樽少年少女合唱団などは、後志石狩、札幌地区の少年少女合唱団との音楽交流会を開催。また、小樽市の姉妹都市ダニーデン市（ニュージーランド）、ナホトカ市（ロシア）へ音楽使節団として遠征し、友好親善に努め、国際交流にも一役買うことが出来ました。

「世界と結ぶ高い文化のまちにしましよう」は、札幌市民憲章ですが、わが国の伝統文化の普及、地域と共生するまちづくりにも積極的に関与してまいりました。

私の信条は「清新・前進・飛翔」であります。行政（市・区）及び北海道文化団体協議会、札幌文化団体協議会並びに札幌市内各区文化団体協議会と積極的な交流を図り、より一層伝統文化の隆昌を期すことにしております。

この度の受賞を契機とし、今後とつてている小樽ライオンズクラブのおかげでもあります。また、これらの催しの成功のため、毅然として応えてくれた団員と、OG、OB団員の協力と頑張りは立派でした。

これからは、特に健康に十分留意し、合唱活動を通して、地域の芸術文化の充実発展に全くす覺悟でおります。



アート+アーバンアート

北海道みらい作品展

障がい児も健常児も区分を設けず一緒に同じ会場で展示する、初の展示会として「(こども)アール・ブリュット 北海道みらい作品展」を、

昨年8月に開催しました。

「アール・ブリュット」とは「生きの芸術」という意味のフランス語です。Artは芸術、Brutはワインなどが生のままである様子をいい、正規の美術教育を受けていない人が自発的に生み出した絵画や造形などを指す、新しい芸術分野です。

この考え方こそが、子供たちが生み出す作品そのものであると捉え、すべての子供たちが分け隔てなく出品できるようにしたのが(こ)の作品展です。

障がいを個性と捉え、障がい児も健常児もみんな違うからこそ、みんないいんだという考え方が基礎になっています。これは国連で採択されたインクルーシブ教育「人間の多様性を尊重し、みんなで一緒に学ぶ」につながる取り組みであり、小中学

生を対象とした作品展は全国でも例がありません。

初めての取り組みでしたが、全道の100の小中学校、特別支援学校・学級から248点の出品があり、この企画の手応えを感じることができました。

さらに多くの企業・団体からのご支援が大きな力となつて、この事業を応援してくださいました。今回の作品展は、芸術文

出品作品の選考風景



一新紀元…かわらぬ思いを文化に託す。

北海道文化集会

第61回



61回目となる北海道文化集会は、11月23日に札幌市資料館で開催し、約120人の参加がありました。

今回は「一新紀元…かわる社会、かわる世界、かわらぬ思いを文化に託す」がテーマ。表彰式、講演、アートステージの3部構成で開催しました。

表彰式については、本号2ペー

講演

講師は國學院大學北海道短期大

学部教授で歌人の月岡道晴氏。

「やまと歌の方法」大伴旅人の万葉歌から現代短歌の連作まで」をテーマに、短歌にまつわる興味深い題材を紹介しながら、分かりやすく解説していただきました。

とりわけ、新年号「令和」の出典ということで関心が高まる万葉集とその和歌の解説に多くのみなさんが引き込まれていました。また、身近な事象や暮らしを詠む短歌の連作を通して千三百年の歴史を誇る文芸への誘いが軽妙な語り口で行われました。

アートステージ

「朗読と音楽：おはなし詰め合
わせ」と題し、朗読が立川佳吾と懸梨恵、ギターが山崎耕佑の、い

ずれも札幌で活躍する3氏によるステージが行われました。物語は絵本の「えんとつ町のペル」。舞台はゴミや煙突からの煙で汚れた町で、メルヘン調のストーリーながら現代社会の環境問題に警鐘を鳴らす内容は、強く印象に残る公演となりました。



朗読と音楽によるアートステージ



歌人の月岡道晴教授

化分野での新しいメセナ活動としても、今後の展開に大いに期待が持てます。



2回目となる今年は8月14日

(金)～16日(日)に、札幌文化芸術交流センターSCARTSで開催します。多くの皆さまの温かい眼差しとご協力で、この作品展を育ててください」とを、心から願っています。



水墨画のワークショップに参加されたみなさん

令和元年度

道民芸術祭

道内文化団体の技術向上と交流の促進、さらには広く道民に鑑賞機会の提供を目的としている道民芸術祭。平成元年度も道内各地で開催され、地域ごとに特色ある発表が行なわれました。



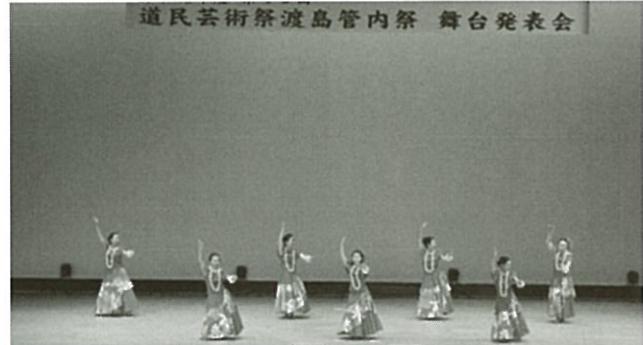
宗谷管内文化団体連絡協議会



後志管内文化団体連絡協議会



釧路地方文化団体連絡協議会



渡島地方文化団体連絡協議会



根室管内文化団体連絡協議会



網走管内文化団体連絡協議会



石狩管内文化団体連絡協議会



日高管内文化団体連絡協議会



十勝文化団体協議会



留萌地方文化団体協議会



上川管内文化団体連絡協議会



檜山管内文化団体連絡協議会

活動状況



胆振文化団体協議会の活動状況

会長 竹下和男

胆振文化団体協議会は、胆振管内4市7町で構成されています。事務局は輪番制であり、現在、白老町文化団体連絡協議会が担当しています。任期は2年です。

胆振文団協の事業は毎年5月開催の総会で、道民芸術祭（胆振芸術祭）と胆振文化交流会（11月）を計画し、加盟団体の協力をいただき、事業を進めています。

白老町文連協が2018年4月に、前事務局の豊浦町から事務を引き継ぎ、半年が経つた9月6日に胆振東部地震が起きました。震源地の厚真町・安平町・むかわ町では土砂崩れがあり、住宅も倒壊し、死者や負傷者が多数出るなどの甚大な被害を受けました。

道民芸術祭（胆振芸術祭）は、開催が危ぶまれたところでありました。が、開催地（苫小牧市、登別市、伊達市、室蘭市）の努力と、加盟団体の支援をいただきながら、実施する

ことができました。連携の大切さを改めて感じています。

1年経った今日、まだ復興の途上にありますが、被災地の安平町に「道の駅」がオープンし、本年4月24日には、白老町にウポポイ・国立アイヌ民族博物館がオープンします。管内の市町には活気が戻ってきています。

胆振文団協が文化活動を通して、地域の発展に寄与することが出来れば、幸いと存じます。



5団体から100点の出品があった
第50回胆振芸術祭いけばな展(登別市)

北海道・黒龍江省

2014~2019

美術交流6年間の歩み

北海道と中国黒龍江省との文化芸術交流は、友好提携以来、数年単位の交流協定に基づき、さまざまな分野で展開してきました。こうした積み重ねにより、多くの人的交流を含め着実な成果を生み出しています。

昨年まで実施した、美術展を両地域で交互に開催する美術交流の6年間を振り返ります。



6年間の美術交流協定に調印する阿部典英前会長（左）と張玉傑黒龍江省美術館館長（2014.7）

第1回 2014年10月

黒龍江省美術館

7月、札幌で黒龍江省美術館と
交流協定書に調印。10月、北海道
から6名の美術家をハルビンに派遣。
黒龍江省側は「この交流は、
省民に日本の優れた現代アートを
身近に鑑賞する機会を提供できる」と期待感を表明し、国際交流美術
展がスタートする。北海道11点、
黒龍江省23点出品。

第2回 2015年7月

コンチネンタルギャラリー

協定調印後初めての札幌開催。

黒龍江省10点、北海道21点出品。
黒龍江省より6名招聘。石油の採

第4回 2018年1月

コンチネンタルギャラリー

ロシア・サハリン州にも呼びか

け、初めての「3地域交流展」を開催。3地域の個性溢れる作品が、友好ムードに花を添える。黒龍江省から8名を招聘、サハリン州からも2名が参加。黒龍江省21点、サハリン州4点、北海道18点。黒龍江省の一行は釧路にも

第3回 2016年10月～11月

黒龍江省美術館

掘で有名な大慶市の版画家による、環境問題を力強く描いた木版画が大きな反響を呼ぶ。一行は道南の自然と洞爺湖を観察。



黒龍江省美術館での3回目の展示（2018.9）



6年間の交流を振り返る座談会（2019.9）



道内の作家50人が出展した6回目の美術展の開会式（2019.9）

足を運び、釧路地方文化団体連絡協議会と釧路美術協会の手厚い歓迎を受け、鶴居村の丹頂鶴を鑑賞。

6年間の交流で実感 求められる若手育成環境の充実



北海道文化団体協議会
名誉会長
阿部典英

今回の6年間の交流を、黒龍江省美術館としてはまだまだ継続したい気持ちを何度も示してくれた。当方としては一旦終了する第一の要因は資金の問題であるとしか言えない。誠に残念であり、寂しい限りである。

特にこれから北海道の未来を創る若者が、芸術文化では生きることが出来ないことを現実に晒されているのである。この状況をどうすれば打破出来るのか、簡単に答えは見つからない。

ハルビンでは、美術家を育成するために、若者の教育環境を整えている。一つは、黒龍江省美術館内で若手の作家を在勤させ、指導教育し育成している。さらに地域に分野別に美術館を設け、その専門家を館長として、若手に研究室を与え、表現技法、作品制作等を指導しているのである。制作に必要な経費、生活費等も支給し、展覧会に出品させ、作品も買い上げるという作家育成制度である。

ロシア、中国、韓国と、日本の隣国はますます芸術文化に力を入れている。ギャップは広がる。しかし諦めることをしてはいけないと考える。

これからも、中国の美術家と共に、世界にデビューできる若手の台頭に力を注ぐ体制作りを、官民挙げて取り組むことを実現しなければと考えている。



ハルビンでの美術展終了後133個の荷造りに追われる派遣団員たち（2016.10）



北海道からの作品を模写して勉強する現地の子どもたち（2016.10）

第5回 2018年9月

黒龍江省美術館

道胆振東部地震発生。混乱の新千歳空港から2日遅れでハルビンに辿り着く。日程変更された9日の開幕式では、黒龍江省が招聘した韓国忠清北道文化団体総連合会との交流、また北海道と黒龍江省の演奏家による開幕式コンサートも開催され賑わう。北海道12点、黒龍江省33点、忠清北道10点出品。

第6回 2019年9月

北翔大学札幌田山キャンパスギャラリー

前回の札幌開催に引き続き、3地域交流展。黒龍江省15点、サハリン州5点、北海道50点出品。また黒龍江省6名、サハリン州2名が参加して交流を行う。開幕日に

は、黒龍江省と北海道の美術家による「6年間の交流を振り返る座談会」を開催。将来の展望へ多くの積極的な意見が出され、国際文化交流を継続させる大切さを確認。

北海道・黒龍江省国際交流美術展 2019図録を販売



定価 600円

お申込は
文団協事務
局へ

全道シルバー作品展

第30回全道シルバー作品展は、令和元年10月27日（日）～31日（木）まで、道民活動センター（かでる2・7）展示ホールで開催しました。出品数は絵画17点、書12点、写真21点、工芸46点、短詩型75点の、合計171作品で、いずれも秀作が揃いました。入賞者は以下のとおり。

北海道知事賞
北海道社会福祉協議会会長賞
岩間文子（絵画）
村上小代子（書）
田中康夫（写真）
永塚ミヤ（工芸）
西野陽子（俳句）

北海道文化団体協議会会長賞	札幌市長賞	特別賞	室内	昭三	森崎	佐々木貞子	義和	木村	長尾由美子	京子	（写真）
かでる賞（最高年齢者特別賞）	太秦三猿	（川柳）	室内	昭三	森崎	佐々木貞子	義和	木村	長尾由美子	京子	（絵画）
成澤茂	垣田郁子	（短歌）	昭三	昭三	森崎	佐々木貞子	義和	木村	長尾由美子	京子	（書）
木村ミイ子	67歳	（短歌）	昭三	昭三	森崎	佐々木貞子	義和	木村	長尾由美子	京子	（工芸）
92歳	84歳	（短歌）	昭三	昭三	森崎	佐々木貞子	義和	木村	長尾由美子	京子	（短歌）
94歳	（短歌）	（短歌）	昭三	昭三	森崎	佐々木貞子	義和	木村	長尾由美子	京子	（短歌）
（川柳）	（川柳）	（川柳）	昭三	昭三	森崎	佐々木貞子	義和	木村	長尾由美子	京子	（短歌）



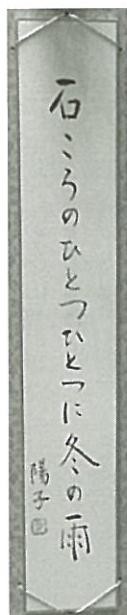
田中 康夫（北海道知事賞・写真）「陽 春」
評／梅林と富士（羊蹄山）、湖水の蒼さ。まさに絵に描いたような美しい風景です。ただそこにひとりの人がいることで俄然、構図のなかに「関係性」が生まれています。湖水を問にして富士と対峙する人が、写真を見る者にはそこに自分が立っているような心地よい錯覚を与えてくれます。



永塚 ミヤ (北海道知事賞・工芸)
「からすうりのリース」(フラワー)

評／実りの秋の表現力、細かい部分まで見事に捉えています。色彩的に暖色の赤とオレンジの調和がすばらしいです。全体からも、秋の雰囲気を誰もが感じられる秀逸な作品です。

30th



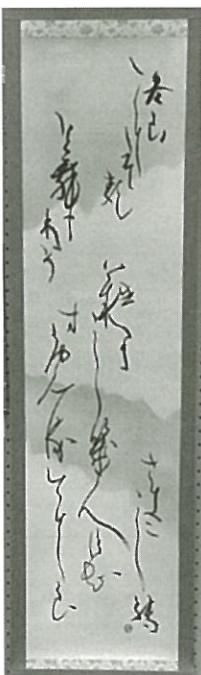
西野 陽子
(北海道知事賞・俳句)

評／猛暑から一気に迎える北海道の冬。魁
けて降る雨が野面を濡らして行く。晴
れているうち乾いていた石のひとつひ
とが濡れて行く様が冬を迎える淋し
さを誘う。平明な好句である。



岩間 文子（北海道知事賞・絵画）
「パセリの花束」

「ハセリの花束」
評／モデルはお孫さんだらうか？家族の愛情が満ちている
作品となった。単なるスナップショットではない感情
が表現されていると思う。
パステルの柔らかさと相まっている。



村上 小代子
(北海道知事賞・書)

評／潤滑の自然な変化、全体感を
つくり出し、しかも筆鋒のは
たらきも味わいがある。

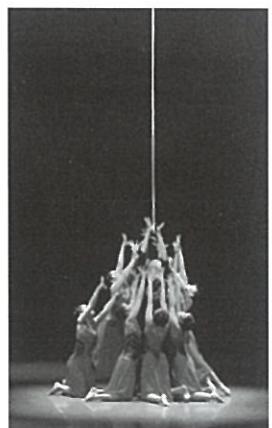
国民文化祭・にいがた2019

洋舞踊ダンスフェスティバルに参加して

赤川智保モダンバレエスタジオ 主宰・赤川智保



昨年11月に天皇陛下御即位記念第34回国民文化祭・にいがた2019の洋舞踊ダンスフェスティバルに10名の団員と参加、1800席の新潟県民会館大ホールは満席でした。新潟と北海道は古くから北前船でつながりが深く、「水」の縁を感じました。プログラムの1部は創作バレエの名作「角兵衛獅子」、2部は7都道府県による「交流の舞」、3部は新潟の14団体による



合同作品「水の物語—母なる信濃川に寄せて—」の3部構成。当方は昨年、札幌文団協フェスティバル芸術選賞を受賞した、震災時の人々の心の動きを芥川龍之介の「蜘蛛の糸」に発想を得た作品「修羅の絲」を発表。見えない糸を手繰り寄せるマイムとモダンダンスを融合させ、ラストシーンでは白い蜘蛛の糸がステージの頭上から降りてくるという演出で、リハーサルでは地元のスタッフの方々と丁寧に打ち合わせし、本番では「息継ぎを忘れるくらい引き込まれた」と好評を得ました。

どの作品も大変レベルが高く、勉強になるとともに多くの方々と交流もでき、北海道を代表する責任は重かつたものの、令和元年の節目に、スタジオ開設33年目を迎えて、ご褒美を頂いた思いです。貴重な素晴らしい機会を頂戴し、今後の励みとなりましたこと感謝の念は尽きません。

東北・北海道交流事業

参加報告

北海道文化団体協議会
事務局次長 伊藤裕子



交流写真展で作品の説明をする福島の作家

7道県の文化団体が事業・運営で意見交換 東北・北海道芸術文化団体協議会は、昭和47年北海道と東北6県の県域芸術文化団体が結成した団体です。その趣旨は、地域の風土や文化に共通するものが多くある東北・北海道における芸術文化団体の相互交流を図り、地方文化の振興に寄与することとしています。

令和元年度総会は6月13日福島市・コラッセふくしまに於いて行われ、交流事業として同会場で

6月12日～16日“紹介たいふるさとの風土と文化”をテーマに写真展も開催されました。7道県の写真家が自然や祭りなどの一場面を切り取った作品46点が並び、総会終了後に出品作家とのトークを交え各県の特色溢れる作品を鑑賞しました。

続いて交流会では、各地での文化助成や新規事業などについて活発な情報交換が行われ、和やかな中にも鋭い意見を交すことができる貴重な場です。あると再認識しました。輪番制2年任期の事務局は、来年度、岩手県に移ります。



貴重な意見交換が行われた交流会

令和2年度 文団協事業予定

- ▽4月17日（金）
北海道文化団体協議会役員会
全道14管内会長・事務局長会議／交流会
(さっぽろテレビ塔)
- ▽5月12日（火）
北海道文化団体協議会総会
(札幌市教育文化会館研修室403)
- ▽6月11日（木）
東北・北海道芸術文化団体協議会総会（岩手県）
- ▽6月～2月
令和2年度道民芸術祭（全道14管内各会場）
- ▽8月14日（金）～16日（日）
こどもアールブリュット北海道みらい作品展
(札幌文化芸術交流センターSCARTS2階)
- ▽9月
第59回道北文化集会（和寒町）
- ▽9月17日（木）
中国黒龍江省芸術団公演
- ▽10月1日（木）～5日（月）
第31回全道シルバー作品展
(札幌市／かでる2・7)
- ▽10月17日（土）～12月6日（日）
第35回国民文化祭・みやざき2020
(宮崎県)
- ▽10月31日（土）～11月3日（火）
第33回全国健康福祉祭ぎふ大会
ねんりんピック岐阜2020美術展（岐阜県）
- ▽11月23日（月・祝）
第62回北海道文化集会（札幌市資料館）

お知らせ

黒龍江省との友好提携35周年に向けて

昭和61年に北海道と中国の黒龍江省が友好提携し、令和3年に提携35周年を迎えます。道文団協としても、35周年にふさわしい事業を検討していきたいと考えています。全道14管内の文団協、ならびに加盟団体の皆様が、令和3年度事業の中で提携35周年協賛事業としてご協力いただける場合は、道文団協事務局までご連絡ください。

北海道文化集会の開催地を募集

道文団協では、毎年11月に北海道文化集会を開催しています。（5ページ参照）

昭和33年から続くこの事業は文団協の精神的支柱とも言える位置づけにあり、全道の文団協の皆様にもこの事業をご活用いただきたいと考えています。各市町村文団協の「周年事業」等に組み込んでいただくことも可能です。開催に当たっては、事業費の助成や運営支援を行っていますので、お気軽に事務局にご相談ください。



北海道文団協のロゴマークが決定しました。
北海道をイメージした背景に、北海道H、文化b、
団体d、協議会Kの頭文字をデザイン化しています。

○○あとがき○○

今年は東京オリンピック。何かとスポーツの話題が増えそうです。芸術文化とスポーツ。一見、対局にあるようですが、相通ずる点も感じます。芸術的な走り、美しい跳躍、魅せられる技に感動…。心を揺さぶるパフォーマンスは分野を超えます。

開話休題。新年度も様々な事業を計画しており、会員の皆様のご協力をお願いいたします。昨年から開始した「こどもアールブリュット北海道みらい作品展」。高い評価を受け、今年はSCARTSでの開催です。昨年の事業名から「+」を取つて心機一転。さらに多くの子どもたちの笑顔が楽しめます。

北海道芸術文化（道文団協広報）

第 66 号

2020年3月25日発行

北海道文化団体協議会

〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目
札幌市教育文化会館内
電話 (011) 271-5036
FAX (011) 271-5046

E-mail : bundankyo@msj.biglobe.ne.jp
ホームページ : http://doubun.wp.xdomain.jp/